

ウラジロ

もりふれ倶楽部理事長 槇原道夫



巳年の新年が明けました おめでとうございます。本年も変わりませず、もりふれ倶楽部の諸活動に、ご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様方のご家庭でも新年を祝い、本年のご家族の平穩、健勝を祈っているいろいろお祝いの飾りを飾り、お雑煮を頂かれたことと思います。

正月飾りに欠かせない植物といえば、だいたい(ミカン科) ゆずりは(トウダイグサ科) うらじろ(ウラジロ科)ですね。

代々(何代にもわたって)うらじろ(夫婦ともに白髪になるまで生を楽しみ) ゆずりは(子孫に代を譲る)家系繁栄を願ってのおまじないだそうです。

ところでこのような風習がいつごろどのようにして生まれたものが調べておりませんのでよくわかりませんが、だいたいは中国南部原産、うらじろは関東以南、新潟以西の暖地の植物、ゆずりはも暖地性の常緑樹ですから、いつの頃か中国南部から渡来してきた風習なのでしょう。

ウラジロ（シダ植物 ウラジロ科）

関東以南、新潟以西の暖地の山中に生える常緑性の大型多年生草本、やや乾燥したところに大きな群落を作る。根茎は太い針金状で長く地中を横にはい質は固く、黒褐色披針形で縁毛のある鱗片を密生し葉をまばらに出す。葉柄は固く茶褐色で光沢がある。葉身は葉柄の上端で左右の2羽片に分かれ、各羽片は披針形2回羽状に深裂する。上面はつやがある緑色、裏面は白く落ちやすい星状毛がある。葉質は洋紙質、小羽片は狭い披針形または線形、羽状に深裂し、裂片は狭長楕円形、先端は円形または鈍形全縁、胞子のう群は中脈と縁の間に1列に並び、4個の胞子のうからなり包膜がない。左右の両羽片の分岐点には鱗片に覆われた芽があり、毎年1回ずつこれが伸びて先端に左右の2羽片を生ずるが、発育の良いものでは、年々繰り返して4～5対の羽片をつけ、高さ2mにも達する。葉を新年の装飾に用い、また葉柄を箸、盆、かご等の製作に使用する。（新日本牧野植物図鑑）

正月飾りにウラジロの代わりにコシダを使用するところもあるので記しておきます。

コシダ（ウラジロ科）

ウラジロと同じような暖地の日当たりのよいやや乾いた場所にはえる常緑多年生。根茎はかたい針金状で長く地表近くを横に這い、つやのある金褐色の細毛を密生し鱗片がない。葉柄はかたい針金状、紫褐色でつやがある。先端は2又に分岐して、さらにその先端にそれぞれ1対の羽片をつけるので、羽片は各葉に6枚あることになる。ウラジロに類似する。ウラジロを小型にしたようなシダであり、親の代から子の代、孫の代にわたって長命で家系を保ち繁栄させるということから、ウラジロ同様の使い方をするとところが結構あるそうです。

ユズリハ（トウダイグサ科）

常緑高木。葉は枝の先に集まってつき互生。6月頃（初夏）に新葉（柄が赤色または淡紅色で長く目立つ）が展開し始めると古い葉を一斉に落として代替わりをする。

ダイダイ（ミカン科）

中国南部から伝来した暖地性の常緑小高木。枝葉は密に茂り枝にとげがある。果実は最初は緑、冬に熟して黄色になり、木に残っている場合には大きくなって次の年の夏再び緑になるまで木についている。代々の繁栄を意味するか？



森林と市民を結ぶ全国の集い2012 in 神々の国・島根

エクスカージョン3 森と人と「出雲」～神話の国「出雲」の森でタイムトラベル～

平成24年11月2日～3日実施 NPO法人もりふれ倶楽部企画運営

報告 谷口 枝里子

第1幕 古代ロマン・出雲・杉・松

(講師 佐藤仁志氏)

島根大学非常勤講師、公益財団法人日本野鳥の会理事長、NPO 法人もりふれ倶楽部理事)

車窓から築地松(ついでまつ)見学

出雲平野は家がまばらに点在する散居集落であり、家の周りには屋敷林があります。出雲の屋敷林の特徴は、クロマツが植えられており、通常は行われない刈り込みが行われていることです。この屋敷林こそが「築地松」であり、世界で唯一のマツの屋敷林です。

築地とは土塁、土堀のことであり、なぜこの屋敷林が築地松と呼ばれることになったのでしょうか。出雲平野は低湿地帯であり、雨が降ると洪水になっていましたが、広大な平野があり肥沃な土地があることから多くの人々がここで農作物を作っていました。そのため、農作業小屋の周りに土を盛って土塁をつくり洪水から小屋を守るようになりまし。そして、土塁の上に植物を植えて洪水に流されにくくするため、低湿地の中で育つ植物として竹類等が植えられ、その後、灌漑が発達し土地が乾燥し始めると、タブやマテバシイといった常緑広葉樹が植えられました。さらに乾燥した土地ができる燃料としても使えることからマツが好んで植えられたとのことです。

作物が実り生活が安定してくると、人々は競ってマツをきれいに刈り込むようになったそうで、その刈り込みを行う職人を「陰手(のうて)刈り職人」と呼びます。職人はたった一人で、梯子と鎌一丁で刈り込みを行うとのことで、大胆と思える鎌の刈り込みから、あの美しい築地松の曲線が生まれていることには驚きです。出雲の人々の拘りがこの曲線に表現されているのだと感じさせられます。

独特の曲線を持った茅葺の家と、その周りに綺麗に刈り込まれた築地松があるという光景は大変美しいものだったそうです。しかしながら、現在は茅葺の家は無くなり、松くい虫等の影響から美しい築地松が見られなくなってしまっているとのことです。

築地松が無くなれば美しい郷土景観とともに陰手刈り職人の技術も失われ、この地域に刻まれている歴史とともに様々なものが失われていくようで寂しくも感じます。



三瓶小豆原(さんべあずきはら)埋没林公園

～巨大な埋没林から古代出雲の森林と向き合う～

「こんな巨木がこの地にあったの? この木は本当に約3500年以上も前の物なの? どんな巨木の森がここにあったのだろう?」という驚きと想像に満ち溢れた出会いが三瓶小豆原埋没林にはあります。

この地域には古くから「埋もれ杉」についての言い伝えがあったそうですが、その埋もれ杉が1983年の水田工事の際に発見されます。その発見をきっかけ調査が始まり徐々に水田の下から巨木が発見されていきました。大きなものは直径約2.6mに達し、年輪は633あるそうです。展示されている巨木の迫力は予想をはるかに超えるもので驚愕です。

この巨木の森は、約3500年前の三瓶火山の噴火の土石流により閉じ込められたものであり、太古の森をそのままに見ること出来ます。埋没されていた杉を切るとその切断面からは今も杉の香りがするそうです。展示さ

れている杉に触れてみる土石流に埋まっていた時の鉄の香りがします。また、樹皮も今まで生きていたかのうように綺麗に残り、その厚い樹皮に触れると絨毯のようにふかふかです。

その杉の巨木は1本の木からなるのではなく複数の木が合体してできた「合体木」であるというのも驚きです。複数の木が1本の木になるというのは大変興味深い樹木の仕組みです。

この巨木の太古の森にタイムスリップしてみたいという願望がふつつつ湧いてきます。



講演「出雲・杉・松」

日本は木の文化であり、その一番の功労者は杉です。3500年以上前から杉の丸木舟は作られており、縄文の遺跡からはマグロの骨が出てきていることから、縄文人は木の船で大海原に出ていると考えられます。

杉は谷に生えているもので、自生林は標高の高いところにあり、日本の固有種であると考えられていますが、決してそういうわけではありません。杉は中国にも生えているのです。また、縄文杉は樹齢7千年と言われていますが、実際は三瓶埋没林で見たような合体木である可能性があります。

出雲大社は、直径が1m以上ある杉の木を3本束ねて1本の柱としていました。日本海側の巨木文化の集大成が出雲大社と考えられます。出雲大社から出土した柱を見てみると、年輪幅が天然木では考えられないくらい広いのです。また、「出雲国風土記」には「宮材造る山なり」という記述があります。このことから、かなり古い時代から植林、育林が出雲では行われていたと考えられます。

松の語源は「神が天から降りてくるのを待つ」などから来ており、大変めでたい木で、日本人と非常に深い関わりの深い木です。

出雲の「築地松」は、他の地域の屋敷林では見られない綺麗な刈り込みが行われ、角には反りの曲線が入っています。出雲人の美的感覚と文化を表すものであり、後世に残したいものです。



第2幕 昭和の里山口マン・奥出雲・森・人・食

(講師 響繁則氏 島根県林研グループ連絡協議会会長、森の名手・名人
野田真幹氏 森林を守ろう！山陰ネットワーク会議島根代表)

森の名手・名人の循環型原木シイタケ生産現場～阿井地区～

木漏れ日のさす針葉樹林の中で整然と美しく並ぶシイタケの原木。美しく組まれた原木は森の名手・名人である響さんの手によるものです。

雪深いこの地では冬に原木を伐採し、春に玉切り、植菌をします。その後、原木を伐採跡地に枝をかけて伏せこみし、植菌後2回目の夏を過ぎると森林の中へ移動します。そうするとその秋にはシイタケが生えます。そして年月を経て伐採跡地は更新していくそうです。

昔、この地域に多くいた原木シイタケの生産者も、現在は数名になってしまったそうです。また、広葉樹の値もさがっていることから、現在は原木を手に入れることには苦労していないとのこと。広葉樹が薪等に使われなくなったことから、森が更新されずナラ枯れ等の問題が発生しているというのは悲しい現実でもあります。

響さんはシイタケ原木を置いている針葉樹林を所有者の方から賃借しているのではなく、針葉樹林を整備する代わりに無料でお借りしているそうで、これも一つの森のつながりなのではと感じました。

また、響さんは原木シイタケだけではなく、稲作、牛の飼育も行っておられます。田の草刈りは牛の餌等のために一度に行わず、順番に行っていくとのことで、一度に刈ってしまうと「明日の餌が無い」、なんてことになるそうです。稲刈り後の稲わらは牛の餌になり、牛の寝床に使われたススキや笹等の敷料は田畑の肥料にされます。

すべてが繋がっていて、無駄なものは無いと感じさせられます。



阿井地区の昭和の山村ドラマ～聞き書きに取り組んで～

語り手 安部清氏、藤原東氏、泰中静江氏、和泉徳江氏

ズーズー弁（出雲弁）で語られたお話が、方言そのままに文章としてまとめられたのが「あい」です。

子供の頃から牛の調教の手伝いをしていた安部さんからは「牛が働かなくなると、牛のお腹の下でワラビを焚いて働かせた。」なんて驚きの話が飛び出します。ずっと山仕事をしてきた藤原さんは「時代が進歩しても山仕事はつらいもの。」と、しみじみと語られます。

「昔は正月の元旦にはたくさん行事があったけど、「山入り木切り」なんて今は誰もする人がいませんね。」と、泰中さんは昔を懐かしみながらも行事を大切にしていきたいという思いを語られます。

当時、農作業の経験が全く無いなかで農家に嫁ぎ、農業のことはお義母さんに教えてもらったという和泉さんは「今も畑に出て仕事をしていると、これもお義母さんに教えてもらったこと。これもお義母に教えてもらったこと、と思い出す。本当にありがたいと思う」と、笑顔でおっしゃられます。聞いていて胸が熱くなり、本当の“つながり”とはこういうことなのかなと考えさせられます。

聞き語りの本「あい」の編集後記に「これらは、作られた話ではなく、また、特別な偉人の話でもありません。」という言葉があります。語り手の方々は、世界中がその人の伝記を読むような特別な偉人ではないかもしれませんが。しかしながら、この方々は私にとっての真の偉人です。その生きざまを少しでも垣間見させていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。



「あい」奥出雲町阿井地区の営み

もりふれ倶楽部で、1冊協力金1,000円でお分けします。

部数に限りがありますので、欲しい方は早めにご一報ください。

平成24年度 もりふれ倶楽部の歩み

11月1日(木) 島根県立出雲農林高等学校対応

飯南町来島の山林において、島根県立出雲農林高等学校環境科学科1年生30名に対して、「林業を体験し、林業を考える」をテーマに「枝打ち体験」「間伐体験」「集材体験」の指導を行いました。午後は島根県立農業大学校に行き、学校の説明を聞きました。

指導 野々村俊成、響繁則、中村正志、野田真幹



11月2日(金)～4日(日) 森林と市民を結ぶ全国の集い2012 in 神々の国・島根

全国から100名以上の参加を得て、5つのエクスカージョンと全体報告会、そして、「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」を事例に森林ボランティアの「ネットワーク」を考えるシンポジウムが、出雲市を拠点に開催されました。もりふれ倶楽部では、エクスカージョン3を企画運営するとともに、全体の事務局をやらせていただきました。



11月10日(土) 大人のための自然観察会

ふるさと森林公園において、第6回大人のための自然観察会を開催しました。

指導 中村正志 ボランティア 百合澤博文

11月11日(日) 第7回里山自然塾～秋の散策とコケ玉づくり～

島根県からの委託事業「第7回里山自然塾～秋の散策と、コケ玉づくりを楽しもう！」を開催しました。参加者30名は、当日はあいにくの雨のため、公園内を散策できませんでしたが、講師の伊原千里氏より、事前に用意して頂いた植物を解説して頂き、2種類のコケ玉を作りました。午後からは質疑応答、竹で飾り皿づくりに挑戦しました。

講師 伊原千里、中村正志 ボランティア 木村京子



11月11日(日) 松江市出雲郷幼児園対応

松江市出雲郷幼児園において、園児と父兄約200名に対し、「植樹」「木工工作」、「ヒノキの皮から和紙作り体験」の指導をおこないました。

指導 野々村俊成、立野直樹、長野和秀、福岡茂明、野口朱美、松本尚子、三枝共子、野田真幹、宮崎徳子



11月13日(火) 水源地域環境保全活動事業

奥出雲町立布勢小学校5年生6人に対して、NPO法人さくらおろちとの協働事業として、水源地域環境保全活動事業「布施小学校～森の健康診断」を行いました。指導 野田真幹、響繁則





11月14日(水)安来市立布部小学校第3回みーもスクール

第3回みーもスクールとして、安来市立布部小学校5～6年生8名に対して、「ヒノキの皮から和紙作り体験」の指導を行いました。

指導 野田真幹、中村正志、野田あや子



11月15日(木)しまね森づくりコミッション出前講座 25

しまね森づくりコミッションでは、出前講座の一環として、雲南市立掛合中学校3年生17名に、「森の大切さの講義」、「ヒノキの和紙作り体験」の指導を行いました。 指導 中村正志、宮崎徳子



11月18日(日)第3回県民の森『里山の憩い講座』

県民の森『里山の憩い講座』第3回「どんぐり料理と焼き芋・飾り炭づくり」を開催しました。どんぐり料理は、煎りどんぐり、どんぐりパン、どんぐりピザ、どんぐり団子を作りました。 指導 野々村俊成、中村正志、宮崎徳子

11月18日(日)松江市月照寺周辺自然観察会

松江市と共同主催で、月照寺周辺において、昨年度に松江市から発行された「樹木めぐり 城山周辺」を手に取り、そこで取り上げられた樹木や地域の史実をガイドに自然観察会を開催しました。24名の参加者は、身近な樹木を改めて見直しながら観察しました。

スタッフ 洲濱寿晴、長野和秀、国井加代子、野口朱美、福岡茂明



11月20日(火)しまね森づくりコミッション出前講座 26

しまね森づくりコミッションでは、出前講座の一環として、松江市立八雲中学校1年生53名に、「森の大切さの講義」を行いました。

指導 野田真幹、宮崎徳子



11月21日(火)しまね森づくりコミッション出前講座 27

しまね森づくりコミッションでは、出前講座の一環として、吉賀町立六日市小学校5年生10名に、「森の大切さの講義」「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。

指導 野田真幹、安達美香(アンダンテ21)

11月22日(木)安来市立布部小学校第4回みーもスクール

第4回みーもスクールとして、安来市立布部小学校5～6年生8名に対して、「森林作業体験」の指導を行いました。

指導 野田真幹、遠藤文次、野々村俊成、野田あや子



11月24日(日)水源地域環境保全活動事業

雲南市温泉地区において、NPO 法人さくらおろちのの協働事業として、水源地域環境保全活動事業「竹林整備体験と竹尽くしで楽しむ1日」を行いました。

指導 野田真幹、中村正志 スタッフ 野々村俊成、福岡茂明



11月25日(日)地SUN地SHOW祭り

くにびきメッセを会場に、「第29回地SUN地SHOW祭り」が開催され、もりふれ倶楽部も「コケ玉づくり」、「木切れ自然工作」を通して、身近な里山や森林の大切さを考えてもらうコーナーを出展しました。

指導 伊原千里、野田あや子、三枝共子、宮崎徳子



11月26日(月)奥出雲町高田小学校対応



奥出雲町立高田小学校全学年18名に対して、緑の募金植樹活動としてコハウチワカエデ等40本の植樹と巣箱・樹名板の設置を指導しました。

指導 野田真幹 遠藤文次、野々村俊成、福岡茂明、野田あや子

11月27日(火)しまね森づくりコミッション出前講座 28

しまね森づくりコミッションでは、出前講座の一環として、浜田市立波佐小学校5、6年生 10名に対して、「森の大切さの講義」、「木切れ工作」の指導を行いました。 指導 野田真幹、宮崎徳子



11月28日(水)雲南市立西小学校第4回みーもスクール

雲南市立西小学校4年生33名に対して、第4回みーもスクールとして、「ヒノキの皮から和紙づくり体験」を実施しました。

指導 野田真幹、宮崎徳子



12月7日(金)雲南市立西日登小学校対応

雲南市立西日登小学校5年生11名に対して、巣箱の架け替えの指導をおこないました。この事業は緑の募金の助成を得て行われています。

指導 中村正志、細田祥子(島根県)



12月8日(土)森林ボランティア講座

島根県立ふるさと森林公園において、第2回森林ボランティア講座(徹底した基礎確認)刈り払機・チェーンソーの基礎知識、目立て、チェーンソーでの安全伐木・造材実習を開催しました。

講師 遠藤正資、穂井田頼、中村正志



12月9日(日)第8回里山自然塾~里山素材のリースを作ろう~

島根県からの委託事業「第8回里山自然塾~里山素材のリースを作ろう!」を開催しました。参加者27名は、ツルの採集からスタートし、公園内を散策しながらリース材料を採集し、リース作りに取り組みました。

講師 影山和美



12月9日(日)水源地域環境保全活動事業

奥出雲町阿井地区において、NPO法人さくらおろちとの協働事業として、水源地域環境保全活動事業「昭和初期の農村を聞き書きから巡る」を行いました。 スタッフ 響繁則、福岡茂明、野田真幹

12月11日(木) 島根県立出雲農林高等学校対応



ふるさと森林公園学習展示館において、島根県立出雲農林高等学校環境科学科1年生30名に対して、「現在の里山林の問題を体験的に学ぶ」をテーマに「里山の森林保全」の講義と竹筒ごはん等の竹の加工体験、「和紙づくり体験」の指導を行いました。

指導 中村正志、響繁則、野々村俊成、野田真幹

12月15日(日) 水源地域環境保全活動事業

雲南市温泉地区において、NPO法人さくらおろちとの協働事業として、水源地域環境保全活動事業「雑木林の活用アラカルト」を行いました。

指導 響繁則、野田真幹、中村正志 スタッフ 福岡茂明



12月16日(日) 第7回神話の郷さくらおろちの食べごと塾

ふるさと森林公園学習展示館において、NPO法人さくらおろちとの協働事業として、「第7回神話の郷さくらおろちの食べごと塾」を開催しました。

講師 藤原人美、玉木麗子他

12月16日(日) 大人のための自然観察会

ふるさと森林公園において、第7回大人のための自然観察会を開催しました。

指導 中村正志 ボランティア 百合澤博文



12月22日(土) 水源地域環境保全活動事業

奥出雲町布施地区において、NPO法人さくらおろちとの協働事業として、水源地域環境保全活動事業「何百年と続く自然と人の共生循環社会～里山の素晴らしさを学ぶ」を行いました。

指導 影山和美、中村正志、野田真幹 スタッフ 福岡茂明

1月13日(日) 第9回里山自然塾～これぞ春の七草

島根県からの委託事業「第9回里山自然塾～これぞ春の七草」を開催しました。参加者20名は、島根県森林インストラクターの中村正志氏から春の七草の話を聞き、公園内や公園近くのフィールドへ七草を探しに出かけました。午後からは七草個々の説明や薬効について学びました。また、無農薬有機栽培米の玄米を使った七草粥を美味しくいただきました。

講師 中村正志 ボランティア 木村京子



1月13日(日) 大人のための自然観察会

ふるさと森林公園において、第8回大人のための自然観察会を開催しました。

指導 中村正志

1月13日(日) とんどさん

NPO法人もりふれ倶楽部では、宍道湖西岸森と自然財団とともに、ふるさと



森林公園で伝承文化としてのとんどさんを開催しました。地元を中心に約50名の参加がありました。
事務局対応



1月14日(月) もりふれ倶楽部会員研修

会員の皆様に対して、燻製作り、どんぐりクッキー作りの研修を行いました。

もりふれ倶楽部今後の予定

2月10日(日) 10時~15時 里山自然塾「ハゼの実で和ろうそくを作ろう！」

参加者募集中：参加費300円 場所：ふるさと森林公園学習展示館と園内

持ち物~弁当・飲み物 定員20名(申し込み順)

2月11日(月) 9時30分~11時30分 ふるさと森林公園学習展示館集合

大人のための自然観察会(自然を撮ろう!カメラを持って集まろう!)

森林インストラクター中村正志氏が、感動的な自然との出会いへご案内します。(16歳以上のみ参加できます。)

参加者募集中：参加費100円 持ち物~カメラ持参をお勧め

前日正午まで申し込みをお受けします。

2月17日(日) 10時~15時 森林ボランティア養成講座(チェンソーの目立てとチェンソーワークの基礎)

ふるさと森林公園

参加者募集中：参加費 500円 定員15名(先着順)

原則チェンソー持参、作業のできる服装で雨天時は雨具も持参 講師：坂越浩一、穂井田頼

2月23日(土) 10時~15時 出雲市佐田町 吉栗の郷

森林ボランティア1日限りの作業班：除伐と片付けとターザンロープ設置

参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給

持ち物~軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け

前日正午まで申し込お受けします。会員の方には、若干の交通費補助を支給します。場所のわからない方はご相談ください。

3月3日(日) 10時~15時 里山自然塾「ナラ枯れ問題と雑木林!燃料としての木!燻製を作りながら考えよう！」

参加者募集中：参加費300円 場所：ふるさと森林公園学習展示館と園内

持ち物~弁当・飲み物 定員20名(申し込み順)

3月10日(日) 9時30分~11時30分 ふるさと森林公園学習展示館集合

大人のための自然観察会(自然を撮ろう!カメラを持って集まろう!)

森林インストラクター中村正志氏が、感動的な自然との出会いへご案内します。(16歳以上のみ参加できます。)

参加者募集中：参加費100円 持ち物~カメラ持参をお勧め 前日正午まで申し込みをお受けします。

もりふれ倶楽部では会員募集中です!

平成25年度1月1日から3月31日までにご入会の方は、入会即日会員扱いとさせていただきますが、年会費は25年度分のみいただきます。入会金千円・年会費2千円です。

もりふれ倶楽部会報

NO.36

〒699-0406 松江市宍道町佐々布3352 ふるさと森林公園学習展示館内 もりふれ倶楽部

TEL(0852)66-3586 FAX(0852)66-3586

[メール morifure@coffee.ocn.ne.jp](mailto:morifure@coffee.ocn.ne.jp) [ホームページ http://www.morifure.jp/](http://www.morifure.jp/)

